



農事普及だより

（5月号 令和4年5月1日～5月31日）

〈発行〉 鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業課
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店
西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
〈編集〉 西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室



気象

（令和4年4月21日 仙台管区気象台発表
東北地方1か月予報より）

東北日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、気温は高くなる見込みです。



水稻

健苗育成と適正施肥で、良食味・高品質米を生産しよう！

1. 育苗

(1) 温度管理

5月は気温が高くなり、ハウス・トンネル内の温度も上昇するため、積極的な換気に努める。

降霜や低温が予想される場合は、被覆資材やストーブなどで保温する。

(2) 水管理

かん水するタイミングは、床土が乾き、苗の葉が巻き始めた頃で、午前中に箱底まで届くようにたっぷりかける。

機械的に毎日かん水すると、草丈が伸びる割には葉齢の進まない軟弱苗となり、田植え後の活着や初期生育が劣るので、育苗中はできるだけ節水し、硬い苗に育てる。

(3) 追肥

田植え前に苗の葉色が淡くなった場合は、1箱当たり硫酸5g（窒素成分で1g）を水500mlに溶かして追肥する。追肥後は、肥料ヤケを起こさないよう葉が乾く前にかん水して肥料分を洗い流す。

2. 本田

(1) 畦畔の補強

畦畔にネズミ穴などがあると水持ちが悪くなり、除草剤の効果が劣ったり、低温時の深水管理が十分でなくなるので早めに補強する。

(2) 施肥

昨年、稲が倒伏したり、いもち病が発生した水田では、窒素量を減らす。

窒素量が多すぎると、食味・品質の低下や倒伏、いもち病等の原因となるので地帯別、品種別施肥基準を遵守する。

■ 施肥量（窒素成分量）の目安 （中苗移植）

品 種	施肥体系	窒素総量 (10aあたり)	基 肥 (10aあたり)	追 肥 (10aあたり)
つがるロマン	表層1回追肥	6～8kg	4～6kg	2kg以内
まっしぐら	表層1回追肥 表層2回追肥	6～9kg	総量の7～8割 総量の6割	総量の2～3割 1・2回目とも2割
青天の霹靂	●施肥体系は表層1回追肥体系を原則とする。 ●適正な生育量が確保できるよう、 <u>基肥は窒素成分量で6kg／10a程度</u> とする。 ●追肥時期は幼穂形成期とする。 <u>追肥の窒素成分量は乾田で2kg／10a、半湿田で1kg／10a以内を目安とする。</u> ●転作後の復元初年目の水田は施肥による生育コントロールが困難なので、作付けしない。			

(3) 代かき

代かきは、田面に高低差が生じないように行う。

生わら鋤込み田や田畑輪換田等の作物残渣がある水田では、残渣を土中に鋤込むため、浅水で代かきを行う。

(4) 田植え

日平均気温が13℃以上になるときを目安とする（五所川原アメダスの平年値では5月10日以降）。代枯れ防止と活着促進のため強風の日は避け、温暖な日を選ぶ。

「青天の霹靂」の栽植株数は70株／坪程度とし、直播栽培・疎植栽培は行わない。

(5) 田植え後の水管理

田植え後は直ちに水を入れ、初期生育促進のため、低温時は苗が冠水しない程度の深水管理、高温時は浅水管理とする。

昼間止水・夜間かんがいを基本とし、掛け流しはせず、水温を上げるようにする。

(6) 除草剤の使用法

除草剤は、前年発生した雑草を考慮して選び、使用基準を守る。なお、除草剤を適正に使用しても特定の草（アゼナ、ホタルイ等）が大量に残る水田では、抵抗性雑草が発生している可能性があるため、これらに効果のある除草剤を選択する。

■ 水管理の目安

生 育 期	暖かい日の水深	寒い日の水深
分けつ期	3cm程度の浅水	5～6cm程度の深水

初期十中期の体系処理の場合は、中期剤の処理が遅れないように適期に散布する。河川等の水質を保全するため、散布後7日間は絶対に落水・掛け流しをしない。

(7) 病虫害防除

⑦ 箱施用剤使用の留意点

いもち病や初期害虫等を予防する箱施用剤は、薬剤毎に使用時期や方法が異なるので、農業の登録内容等を確認して適正に使用する。

① イネミズゾウムシ

移植前や移植時に防除をしなかった場合は、発生に応じて防除する。

発生が多い場合には6月上旬頃に水面施用剤を散布する。この時期の防除によりイネドロオイムシも防除できる。

② 葉いもち

補植用苗をほ場に放置したままにしておくとし「葉いもち」の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分する。

(8) 農業危害防止

育苗跡地で野菜等を栽培する場合は、育苗箱用の農業処理を育苗ハウス外で行うか、ハウス内で行う場合はビニールシートなどの無孔シートを使用するなど、農業が土壌に浸透しない対策を行う。

主食用米を生産・販売する
担い手農業者の皆様へ

ナラシ対策に加入しましょう！

令和3年度米の青森県産「まっしぐら」、「つがるロマン」概算金価格は大幅な下落となり、稲作農業者の経営に大きな損失を受けました。

ナラシ対策等のセーフティネット対策へ加入しておくことは、担い手の皆さんの経営安定のためにとても重要です。

これまでナラシ対策に未加入で、令和4年の収入保険に未加入の方には、ナラシ対策への加入をお勧めします（加入申請期限：6月30日）。

畑 作

大豆の適正は種、小麦の適期追肥で生育量を確保しよう！



大豆

1. ほ場準備

転作田では排水対策として、ほ場周囲に明きょを掘る。

水稻作から大豆作に切り替える時は苦土石灰などを施用し、pH6.0～6.5を目標に土壌酸度を矯正する。

水分が多い状態での事前耕起は、ほ場の物理性が悪化するので、乾燥した状態で作業し、回数も最小限に抑える。

湿害を受けやすいほ場では、「うね立ては種」等で被害を軽減する。

2. は種期・栽植密度

は種適期は5月中旬～下旬、は種量は7～8kg／10aを目安とする。栽植密度は畦幅70cm前後、株間15cmの2本立てを基本とする。

は種直後の多雨は、出芽率の低下や初期生育の不良を招くので、気象条件に注意しながら作業する。

やむを得ず、は種が遅れる場合は株間を詰め、は種量を増やす。

3. 施肥量

基肥は、窒素成分量で2～3kg／10aを基準とし、土壌条件、連作等を考慮し増減する。

4. 種子消毒とわい化病の予防

必要に応じて、下記の剤で塗沫処理を行う。 ○：効果あり X：効果なし

剤 名	鳥害防止	紫 斑 病	アブラムシ類（わい化病）
キヒゲンR－2フロアブル	○	○	X
クルーザーFS30	X	X	○
クルーザーMAXX	○	○	○

注）クルーザーFS30は鳥害防止効果がないので、鳥害が予想される場合は事後にキヒゲンR－2フロアブルの塗沫処理を行うこと。

5. 根粒菌の接種

大豆栽培初年目のほ場は、根粒菌の着生が悪く生育に影響するので、種子消毒後に市販の根粒菌を粉衣する。

6. その他

は種後、速やかに土壌処理除草剤を散布する。ほ場の碎土が粗い場合や、ほ場表面の水分が低い場合は効果が劣るので、耕うんをていねいに行うとともに、明きょやサブソイラー等による排水対策を行う。



りんご

平年より生育早まる、霜害防止対策をきちんと行おう！

人手受粉も行い、結実の確保に努めよう！

黒星病重点防除時期なので、薬剤の散布間隔は10日以内を遵守しよう！

適期作業と適正防除で良品生産を目指そう！

県生育観測ほ（板柳町五幾形）のふじの発芽日は4月9日（平年4月8日）で平年より1日遅かったものの、4月9日から12日の高温の影響で、展葉日は4月13日（平年4月18日）で平年より5日早かった。

今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、県生育観測ほ（板柳町五幾形）のふじの開花日は平年よりも6日早い5月2日頃と予想される。

1. 霜害防止対策

これから開花前後は最も低温に弱い時期となる。花蕾着色期で－2℃、開花始め～落花期で－1.5℃～－1.7℃ の低温に約60分遭遇すると被害が開始する。

降霜は、晴天無風で午後7時の気温が6℃以下の日の翌日早朝に発生する可能性が高い。今年も生育が早まっており、霜害を受ける危険が高くなっているため、霜害防止対策を確実に実施する。

(1) 燃焼法

霜注意報が出たら、自園の気温の動きを観察し、0℃になったら燃焼資材に点火する。

(2) 送風法（防霜ファン）

防霜ファンを設置している園地では、ファンの始動温度を2℃に設定しておく。

寒気を伴ったときや著しく低温になったときは、防止効果が低いので燃焼法を併用する。

幼果期に被害を受けた年もあったことから、結実後でもファンのスイッチは切らない。

(3) 事後対策

開花期までに霜害にあった場合は、結実量を確保するため、必ず人手授粉を実施する。その際、めしべの被害程度を確認して授粉する。

2. 結実確保

マメコバチを導入していない園地では、安定した結実量を確保するために人手による授粉を徹底する。また、マメコバチ導入園においてもその数が少ない場合や開花期に不順天候が続く場合には、人手による授粉を行って結実確保に努める。

3. 摘花・摘果

良品安定生産のためには早期適正着果が重要であるので、摘花を積極的に実施する。ただし、降霜常襲地帯や開花期に天候不順が予想される場合は、一輪摘花の実施や摘花剤の使用を控え、えき芽花の摘み取りにとどめる。

(1) 摘花

⑦ 人手による摘花

弱い花そうやえき芽花等の不要な花そうは、全花摘み取る。

① 摘花剤の利用

開花量が多く、結実が十分確保されると見込まれる場合は、摘花作業時間が20～30％程度短縮できるので、石灰硫黄合剤又はエコルーキーを積極的に利用する。使用法は次表のとおりである。なお、いずれの剤も全品種に使用でき、展着剤は不要である。

■ 石灰硫黄合剤及びエコルーキーの使い方

薬剤名	散布時期	本剤の使用回数	成分総使用回数	希釈 倍数	10a当たり 散布量
石灰硫黄合剤	満 開 後 (頂芽花の満開日とえき芽花の満開日)	2回	—	100～120倍	350～500%
エコルーキー	満 開 日 追加散布を要する場合はその2～3日後に1回	2回以内	2回以内	100～150倍	300～600%

注）1 満開日とは7～8割が開花した日で、花びらの散り始めでもある。
2 マメコバチに対して害作用がないので、マメコバチ導入園で利用しても良い。
3 ミツバチ導入園で石灰硫黄合剤を利用する場合は、散布前にミツバチの巣箱を回収する。
4 エコルーキーは、花そう葉又は新梢幼葉の葉縁部に褐変（葉焼け）症状が発生する場合がある。

(2) 摘 果

⑦ 人手による摘果

摘果は早いほど良いが、実止まりが判別できない時期（落花10日～15日後頃まで）にはまず一つ成り摘果を行う。

ただし、つがる、デリシャス系など年により早期落果の多い品種は、落花10日後頃までに一つ成り摘果を終える。

仕上げ摘果は、陸奥では落花15日後頃までに、他の品種は落花25日後頃までに終える。

① 薬剤による摘果

ふじ、王林、陸奥、北斗、シナノスイート、さんざ、早生ふじ、トキを対象に各品種の満開後2週間頃（ふじでは横径が10mm位の時）、紅玉は満開後3週間頃（横径が16mm位の時）にミクロデナボン水和剤85（1,200倍、展着剤加用）を、果実に十分かかるよう10a当たり350～500リットル散布する。

■ 標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ（残す果実）	着果率（％）
紅 玉	3頂芽に1果	33
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果	29
ふじ・王林・さんざ・きおう・トキ・早生ふじ・未希ライフ・千雪・シナノスイート・シナノゴールド・ぐんま名月	4頂芽に1果	25
北 斗	4.5頂芽に1果	22
陸 奥 ・ 世 界 一	5頂芽に1果	20

4. 病害虫防除

- (1) **黒星病**
「ふじの落花20日後頃」までが最も重要な時期なので、**10日間隔で散布**する。散布予定日に降雨が予想される場合は、前日に散布する。低温、多雨等で開花期間が長引いた場合には、満開を過ぎたら花が残っているも「落花直後」の散布を行う。
- (2) **腐らん病**
枝腐らんは見つけ次第、切り取って処分する。
胴腐らんは再発病斑を含め見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。
㊦ 泥巻きを行う場合は、周辺健全部を含めて病患部に厚く泥を張り付ける。
㊧ パッチレートまたはフランカッスプレーを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部を紡錘形に削ってから塗る。
㊨ トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、さらに浸透性を高めるために周辺の健全表皮（上下約5cm、左右2～3cm）を薄く削ってから塗る。
㊩ 胴腐らんの発病が著しい樹は、病原菌の伝染源になるので積極的に伐採する。
- (3) **ミダレカクモンハマキ**
発生が多い園地では、「開花直前」及び「落花直後」にロムダンフロアブル、カスケード乳剤、アタブロンSC、ファイブスター顆粒水和剤、バイオマックスDFのいずれかを選択し、同一薬剤を連続して散布する。
- (4) **リンゴコカクモンハマキ**
越冬世代幼虫が多い園地では「落花直後」にカスケード乳剤又はアタブロンSCを散布する。
- (5) **クワコナカイガラムシ**
発生が多い園地で、「展葉1週間後頃」にアブロードフロアブルを散布しなかった場合は、「落花10日後頃」と「落花20日後頃」に薬剤による胴木洗いを行う。

■ 薬剤散布			
回	散布時期	基 準 薬 剤	散布量 (%／10a)
第2回	ふじの開花直前 (5月1日～3日頃)	SDHI剤 オルフィンフロアブル 4,000倍 ネクスターフロアブル 1,500倍 フルーツセイバー 2,000倍 カナメフロアブル 4,000倍 パレード15フロアブル 2,000倍	320
第3回	ふじの落花直後 (5月11日～13日頃)	ミギワ20フロアブル 4,000倍 ＋ デランフロアブル 1,500倍 又はチウラム剤 500倍 チオノックフロアブル 2,000倍 トレノックスフロアブル 600倍 又はマンゼブ剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤	350
第4回	ふじの落花 10日後頃 (5月21日～23日頃)	炭酸カルシウム水和剤 100倍 ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍 ＋ チウラム剤 500倍 又はマンゼブ剤 600倍	350
第5回	ふじの落花 20日後頃 (5月31日～6月2日頃)	炭酸カルシウム水和剤 100倍 デランフロアブル 1,500倍 又はチウラム剤 500倍 又はマンゼブ剤 600倍	420

※農業はりんご園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



※1 散布月日は目安であり、天候や生育状況により変わるので、自園地の状況を確認する。

特産果樹

霜害防止対策の徹底と適期作業、適正防除で良品生産を目指そう！

共通

1. 霜害防止対策

りんご同様、霜注意報が出されたら、霜害防止対策を確実に実施する。

ぶどう

県生育観測ほ（鶴田町境）のスチューベンの催芽日は**4月12日（平年4月15日）**で平年より**3日早かった**。なお、発芽日の平年は**5月1日**である。

1. 摘芽・摘梢

養分の競合を防ぎ、日当たりや通風を良くするため、できるだけ早く実施する。
不定芽から伸びたもののうち、予備枝として利用できるもの以外は摘除する。
晩霜害の恐れがある園地では、6月上旬の晩霜の心配がなくなってから最終新梢数とする。
樹勢が強い樹では花振るい防止のため、やや多めに残し、結実の状態をみてから、最終新梢数とする。最終新梢数はスチューベンでは主枝1m当たり8～10本とする。

2. 病害虫防除

- (1) **ツマグロアオカスミカメ**
発生が多い園地では、展葉直前（5月上旬）にモスピラン顆粒水溶剤2,000倍を散布する。
- (2) **灰色かび病**
新梢伸長期に多発生が懸念される場合は、スチューベンではポリオキシンAL水和剤又はDMI剤（インダーフロアブル又はオンリーワンフロアブル）、シャインマスカットではDMI剤（インダーフロアブル又オンリーワンフロアブル）を散布し、新梢での被害を防止する。

(3) ペと病

発生が多い園地では、スチューベンでは新梢伸長期（約20cm）にジマンダイセン水和剤、開花10日前（6月上旬）にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40、シャインマスカットでは新梢伸長期（約15cm及び約30cm）にジマンダイセン水和剤を散布する。
また、発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取って処分する。

■ 薬剤散布

灰色かび病、黒とう病、ペと病の重点防除時期なので、昨年の病害発生状況と今年の天候に応じて防除薬剤を選択する。なお、水稻育苗ハウス内にシャインマスカットが栽培されている場合、農業散布、摘芽・摘梢等各種管理作業は、育苗箱搬出後に行う。



※農業はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。

〈スチューベン〉				〈シャインマスカット（露地栽培）〉			
散布時期	基 準 薬 剤	散布量 (%／10a)		散布時期	基 準 薬 剤	散布量 (%／10a)	
新梢伸長期 (約20cm) (5月中旬～下旬)	ジマンダイセン水和剤 1,000倍 又はポリオキシンAL水和剤 500倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍 バダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオフロアブル 1,500倍	200		新梢伸長期 (約15cm) (5月中旬～下旬)	ジマンダイセン水和剤 1,000倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍 バダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオフロアブル 1,500倍	200	
開花 10日前 (6月上旬～中旬)	アリエッティC水和剤 800倍 又はキノンドー水和剤40 600倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍 ベストガード水溶剤 1,000倍 又はバダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオフロアブル 1,500倍	250		新梢伸長期 (約30cm) (6月上旬)	ジマンダイセン水和剤 1,000倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	200	
				開花 10日前 (6月中旬)	アリエッティC水和剤 800倍 ベストガード水溶剤 1,000倍 又はバダンSG水溶剤 1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオフロアブル 1,500倍	250	

おうとう

1. 結実確保

毛ばたきやマメコバチ等による授粉を積極的に行う。毛ばたきによる授粉は、5分咲き頃と満開期頃に少なくとも2回は行う。

2. 摘 果

紅秀峰や樹勢の弱った佐藤錦等は、結実過多により小玉になりやすいため、満開後30日頃までに摘果を行う。着果は、1花束状短果枝当たり2～3果程度とする。

3. 雨よけハウスの点検と被覆準備

老朽化が進んでいる雨よけハウスが散見されるので、被覆前に点検し、不具合のある場所は修繕する。なお、例年の被覆時期は6月上旬頃であるが、開花時期が早い年では5月下旬となる場合もあるので、ハウスの点検と併せて被覆の準備をする。

■ 薬剤散布

散布時期	基 準 薬 剤	散布量 (%／10a)
満開5日後 (5月上旬)	パスワード顆粒水和剤 1,500倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍 又はラリー水和剤 2,000倍 又はオーシャイン水和剤 3,000倍	500
満開12日後 (5月中旬)	オーソサイド水和剤80 800倍 ダイアジノン水和剤34 1,000倍	500
満開25日後 (5月下旬)	オーソサイド水和剤80 800倍 ダイアジノン水和剤34 1,000倍	500

注) パスワード顆粒水和剤はぶどうの「スチューベン」「バツファロー（アーリースチューベン）」、「ポートランド」など一部の品種で、軽微な葉害を生じることがあるので飛散させない。



※農業はおうとう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。

春の農作業安全運動実施中

4月1日～5月31日

トラクター等の大型機械の使用が始まります
まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全！



町農業委員会では、毎年6月中旬から農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。

農地の貸借や売買については、町農業委員会へご相談ください。



野菜

トマト

1. 定植後の管理

(1) 手かん水

定植後、活着に日数を多く要し、葉露が発生しない場合は、株元に手かん水を行う。その時に葉色が淡い場合はかん水を兼ねて液肥を株元に施用する。

■ 追肥肥料例（葉色が淡い場合）				(2,100株／10a)	
肥料名	倍数	1株当たり	必要量／10a	回数	
OK－F－1	700倍	300cc	水 600ℓ	肥料857g	3～4日おき

(2) わき芽とり

わき芽は定植後に活着してから摘み取るが、傷口を乾かすためできるだけ晴天の日に行う。

(3) トマトトーン処理

1～4段花房は、第4花開花始めにトマトトーンを処理する。

2. かん水・追肥

試しかん水は、2段花房のトマトトーン処理後に1株1リットルを目安に行う。
本格的なかん水・追肥は、3段花房の開花期から行うこととし、1回当たりの追肥量は窒素成分で約0.5kg／10a以内とする。追肥による根焼けを防止するため各液肥の基準希釈倍数は遵守する。

3. 温度管理

ハウス内の温度は昼間25℃前後で管理する。最低気温は15℃以上を目標とし、夜間冷え込むことが予想される場合は、被覆資材や暖房器具等を設置し気温の低下防止に努める。

6～8月は「農業危害防止運動」実施期間です

農業の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう

○使用し残った農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
○農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認してください。
○農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

花き

トルコギキョウ

1. 定植後の管理

昼温25℃以下、夜温15℃を目標に、こまめなハウスの開閉や遮光により適正な温度管理に努める。
定植後は、活着するまで乾燥しないようこまめにかん水し、生育初期に十分な発根を促す。草丈15～20cm以降は徐々にかん水の間隔をあげ、根が深くまで張るよう心がける。
追肥は、生育を見ながら出蕾前までに液肥で3～5回施用する。

2. 枝整理と摘蕾

地際から20cmくらいまでの側枝は早めに摘み取り、主茎の生長を促す。その際、付け根から除去しないと、再び側枝が発生するので注意する。
また、1番花は手で摘み取れる大きさになったら早めに除去し、その後に出荷時の開花のそりを考慮して、不要な枝と蕾を整理する。

3. 病害虫防除

アザミウマ類、アブラムシ類等の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

土づくり

施設栽培のほ場では、肥料成分の過剰蓄積が見られるため、ほ場準備に当たっては土壌診断に基づく適正な施肥を行う。

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。
鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時 ☎22-2111（役場産業課）

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～

URL <http://www.town.tsuruta.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>

